



<https://douzou.jp/>

隼人族の森を渡る風

上床 利秋

連載エッセイ 第 115 回



「アフガンに生きた侍」
中村哲医師像
筆者作 / 木彫（赤楠）



「ハンミョウ」 筆者作 / パステル

人は見ようとするものしか見えていない

今年もまた暑い夏がやってきた。杉アトリエの地面も焼け付くようだ。にもかかわらず、それを喜ぶようにハンミョウがジャンプする。

アフガニスタンにて人道支援に尽力された中村哲医師の著書によると、アフガンに勤めることを決めたきっかけの一つは、そこが珍しい蝶の種類の多い事を知っていたからだそうだ。生前、ハンミョウについて『日本ではどこでも見かける虫だ。しかし、その事実を知った小学校3年生の自分にはそれまで見えていなかった。人間の脳は見ようとするものしか見えていないことを実感した。』と記述している。

そのハンミョウは杉アトリエに大量に繁殖している。この虫は人間の行く先に数メートル飛んでは人の姿を振り返る。そして近づくともた数メートル先に飛んで後ろを伺う習性を持っている。別名「道しるべ」または「道おしえ」。体長 25mm くらいで小さいけれども、めっぽう美しい。

この虫が熱い地面に姿を見せる度に生前の中村哲医師の用水路建設事業を思い出す。

2026年7月